

令和5年度 事業計画書

1. 前年度より引き続き、末梢血由来 CD56 陽性細胞の腫瘍細胞に対する殺細胞効果を発展させた、新免疫細胞 BAK 療法を検証して確立させる。その研究は研究所長の岡本正人及び補充する研究者・研究員で行う。
2. この研究も前年度に引き続き、患者自身の免疫状態が疾病には、極めて重要な役割を果たしている事が明らかになっている。患者並びに疾患予備軍の健常者（未病）において免疫状態を数値化することは、治療並びに生活習慣の改善において非常に有効である。この免疫機能解析検査技術を仙台微生物研究所で岡本が確立する。
3. 上記の免疫機能検査結果を踏まえて、個々の患者にとって有用な、次世代の個別的免疫療法の研究・開発（特許申請と臨床応用）を研究所長の岡本が進める。
4. 幹細胞培養上清液の製造・研究を進める事とする。
5. 海外技術移転の件は、前向きに進め半年から一年でまとめる予定である。
6. インターネットホームページを改修して県民の保健衛生の向上に寄与する。
7. 従来 of BAK 細胞の寿命延命化の試みを実施し治療効果を高める、研究開発が発見されたのでその準備に入る。
8. 人工ハイブリッド抗体を応用した免疫療法と BAK 療法を組み合わせる研究開発を進める。（前項7・8は関係のある東北大学の研究者の正式了解を得ることが条件です。）
9. 初代理事長石田名香雄博士並びに海老名卓三郎博士の功績をたたえ、微生物学・免疫学・腫瘍学・公衆衛生学の分野で、卓越した業績を挙げ、今後もこの分野の研究を推進する若手研究者を顕彰する「石田・海老名記念北斗医学賞」の第11回受賞者を選出し、授賞式を行う。